

「結果至上主義者たちの終着点」

伊波 営業マン。転職して営業部に配属された。

元岡 営業部長。目力が強い。

大川 営業部。一人で会社を支えるエース。

戸塚 営業部。大川の部下。努力家。

営業部。

元岡と伊波が話している。

伊波 本日からこちらでお世話になります伊波です。よろしく願います。

元岡 君が伊波くんか。よろしく。営業部長の元岡だ。

伊波 よろしく願います。

元岡 前の職場では優秀な営業だったそうだね。人事に聞いているよ。

伊波 恐れ入ります。

元岡 しかし、前職がいかに優秀であろうと、営業は結果が全てだ。特に急成長している我が社にとって、最も重要なポジションがこの、営業部だと私は思っている。

伊波 はい。

元岡 ここに配属された君に期待されるのは、数字だ。どんなやり方でも数字さえ出せば、ある程度のことは目を瞑ろう。結果を・・・期待している。

伊波 はい！お任せください。

元岡 うん。まあ他業種からの転職では最初はわからない事も多いだろう。君の指導にはウチの「エース」をつける。まずは彼の元でウチのやり方を覚えてくれ。

伊波 ありがとうございます！

元岡 大川くん。ちょっと来てくれ。

大川が卑屈な小走りで行ってくる。

大川 えっへっへっへっへっ。ごきげん麗しゅうございます、部長。アタクシをお呼びでございませうか？

伊波 エース・・・？

元岡 うん。彼は今日から営業部に配属された伊波くんだ。

大川 ええ！？こちらの方が？あ！（目を覆う）っあーっ！

伊波 何ですか？どうしたんですか？

大川 すみません、後光が見える、後光が眩しい。

伊波 後光？

大川 いやー、本当に素晴らしい方からは、後光が見えるんですなー、へっへっへ。

伊波 ・・・・こちらが・・・？

元岡 彼がウチのエースの大川くんだ。

伊波 エース？

大川 いやいや！そんなそんな！エースなんてとんでもございません。それもこれも皆様のお陰で！お陰で、ございまして！もう一重に、部長様のお力あつてと言っても、ねえ？

へっへっへ。よ！部長！日本一！

伊波 ・・・・この人が？

元岡 うん。大川くんは一人でこの会社の売り上げの50%超を叩き出している。

伊波 一人で！？

大川 偶然。偶然でございますよ。そもそも？伊波さんあつてのみたいな部分があるじゃない

ですか。

いや、今日初対面ですから・・・、
じゃ無いっか！申し訳ございません。へっへっへ。あ！お電話が。少々失礼して、はい、すみません。（電話に出る）はい、大川でございます！・・・あ！ホセ・カレラスさん？世界三代テノールの・・・え？あ、山田社長ですか？美声すぎてホセかと思っただけ！はいはい。契約の件で・・・え？いいんですか社長？ちよつとー、社長！おい！おい、社長！・・・申し訳ございません！アタクシ、腹を切つて・・・切りまっせん！へっへっへ。はいそれじゃ後ほど契約書お持ちしますー。失礼いたしますー、電話切らせていただきますー、失礼しますー。（電話を切る）部長、山田物産の契約の方、五億で、成立いたしました。

元岡 うん・・・。伊波くん。先ほども言ったが私は、数字さえ出せば、ある程度のことは目を瞑る。わかるね？

伊波 あ、こういう・・・あ、はい。

元岡 さて、大川くん。大川くんにはこの伊波くんの、指導を任せたい。

大川 ええ！？アタクシですか？いやいや！そんなそんな！アタクシのような下賤な人間にそのような大役が務まりますかどうか。

元岡 大川くん、出来ないのかね？

大川 やらせていただきますっしょ！

伊波 ええ・・・？

大川 僭越ながら、アタクシ大川が、伊波大先生のご指導の方、勤めさせて、いただきました、ございます。

伊波 よろしく願います・・・。

大川 あ！それでは、一緒に働く事になるアタクシの僭越な部下も、ご紹介させていただきます、して、

伊波 僭越な部下？

大川 あ、何か聡明な気がきが？聡明ゆえに、アタクシの発言に対する気がきが？

伊波 無いです無いです！紹介してください！

大川 かしこまりました！戸塚先生！戸塚大先生！

戸塚が卑屈な小走りで行ってくる。

戸塚 えっへっへっへっへっ。

伊波 ええ！？

みなさまお揃いで、ごきげん麗しゅうございますな！あ！（目を覆う）っあーっ！後光が！眩しい！

伊波 さつきも見た！さつきも見たやつ！

大川 戸塚先生、こちら新しく営業部に配属された伊波先生。戸塚先生と一緒に、アタクシが指導を承りましたので。

戸塚 ええ！？ご一緒に？あ、初めまして。戸塚と申します、あーっ！こつちも後光が。

伊波 いや、そういうのいいですから！

戸塚 (目を背けた先に部長がいる) あーっ！
もうなんなんですか！？

元岡 戸塚くんは去年、新卒で入社してから大川くんの元で指導を受けて、一年でこうなった。初年度で2億を売り上げた若きエースだ。

伊波 この人が？

戸塚 いやいや！そんなそんな！エースだなんてとんでも無い！大川大先生に比べたら、アタクシなんてゴミみたいな成績でございますので。へっへっへ。

大川 いやいや！戸塚大先生が優秀だからこそでございますからね！いやー、流石！次期部長の器。そして部長は社長の器。アタクシそんな環境で働きまして感謝感激、恐悦至極でございませよ！

戸塚 いやいや！大川大先生あつてですから！

大川 いやいや！戸塚大先生の、

戸塚 いやいや！

大川 いやいや！いやーいやー！

謙り合い。戸塚は懐からメモを取り出して大川の行動のメモを取る。

伊波は元岡に助けを求める視線を送るが、まっすぐ見つめ返される。

伊波 あの・・・え？この人たちと一緒に働くんですか？

元岡 正確には彼らの下についてもらう。

伊波 この人たちの下につくんですか！？・・・下に！？

大川 えっへっへ、僭越ながら、アタクシが上司を勤めさせていただきます。

戸塚 そしてアタクシが、先輩という大役をやらせていただきます。

伊波 ・・・・本当に！？いやー・・・あのー、私には、

大川 アタクシ。

伊波 はい？

大川 ・・・・アタクシ。

伊波 ・・・・アタクシには、

戸塚、伊波の肩を叩いてメモを見るように促す。

伊波 え？え？・・・(戸塚のメモを見る)何？・・・あ、後光？後光？・・・(目を覆つ) あーっ・・・。

伊波は元岡に助けを求める視線を送るが、まっすぐ見つめ返される。

伊波 ・・・・あのー、一年で戸塚さんは、こんな、感じに？なっただんですか？

戸塚 へえ。アタクシ、右も左もわからないぺえぺえでございましたが、大川大先生のご指導の元、何とか先生の高みに少しだけ近づいております、へえ。

大川 いやいや！そんなそんな！戸塚大先生の才能の賜物でございますよ、へっへっへ。

戸塚 いやいや！

大川 いやいや！いやーいやー！

謙り合い。戸塚はメモをとる。

伊波は元岡に助けを求める視線を送るが、まっすぐ見つめ返される。

伊波 あー、そーですかあ・・・。

元岡 ともかく、我が社で最も営業成績の良い彼らのもとで、彼らのやり方を存分に学んで欲しい。君には期待している。では、何かあれば私に報告しなさい。

伊波 あ、じゃあ早速何ですが・・・退職します。

大・戸 ええ！

伊波 うるせえ！